

「集まれ NPO まちづくり WS&交流会」開催報告

実施日程：

2013年5月18日（土）14:00～17:00

場所：

淀川区役所 5階会議室

参加者数：

淀川区内に事務所を置く全 NPO 団体（97 団体）に向けて案内状を送付した。

当日は 22 団体 31 名が参加され、A～E の 5 グループのテーブルに分かれた。

内容：

NPO 団体の交流を目的として「地域活動協議会」や「淀川区のまちづくり」をテーマに、淀川区まちづくりセンターと、淀川区 NPO 連絡会準備会の共催で開催。ワールドカフェ形式による 20 分×3 セッションでワークショップを行った。

第 1 セッションのテーマは「このまちで やってみたいな こんなコト」。

各団体の自己紹介が話題の中心となっていたが、主に次のような意見が出された（順不同、一部抜粋）。

- ・みんなで集まる場所が欲しい、障がい児と健常児の交流
- ・宇宙サロンや宇宙フォーラムを淀川区内各地域で開催していきたい
- ・防災のイベント
- ・旅行客が淀川区で記念撮影したくなるような、安全・きれいなまちにしたい
- ・まちをアピールする冊子づくり、フェイスブックなどを使った情報発信
- ・事業計画や会計・予算など、煩雑な申請書類のお手伝いをしたい

第 2 セッションのテーマは「たまげたわ あんな活動 あんな人」。淀川区内のすごい活動や人物を挙げて頂いた。

¹ ワールドカフェとは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に語り合い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていく手法。

第3セッションのテーマは「淀川区 文殊の知恵で まちづくり」。第1・第2セッションの結果を踏まえ、淀川区で何ができるかを挙げて頂いた（順不同、一部抜粋）。

- ・人材バンクをつくる。できる人ができることを必要な場所へ派遣する。
- ・箱物が使用されていない→団塊の世代の方がいかに活用するか
- ・世代を超えたコミュニケーションの場をつくる。
- ・淀川区にはNPO法人が多い。環境や防災、子育てで地域や行政との連動。

結果考察：

今回のワークショップでは、NPO団体の顔合わせをする要素が強かったため、各セッションのテーマと実際に出た意見の内容は、必ずしも一致するものではなかった。しかしながら、今回初めてNPO団体相互の交流ができたことについて、参加者の反応は概ね良好であった。

終了後に実施したアンケートでは、計22人から回答が得られた。

地域活動協議会の認知度を問う設問1（複数回答1件含む）では、「名前は知っていた」が10人と最も多く、「既に一緒に活動している」と「知人が参加している」を合わせると**82.6%の方々が地域活動協議会を知っている**ことが明らかとなった。

また、ワークショップで企画の種があったかどうかを問う設問4では「はい」が14人、「いいえ」2人、「無回答」6人で、**全体の63.6%が「はい」と回答**し、半数以上が何らかの収穫を得ていたことが分かった。

なお、主な感想は次の通りであった（順不同、一部抜粋）。

- ・色々なNPO、団体の方と1rd、2rd、3rdテーブルを通じて、短い時間ではありましたが、話し合い、**交流を持てたのがよかった**と思います。
- ・大変有意義な時間だと思います。回を重ねるごとに良いものになると思います。**NPO以外の立場の人々とも交流できる場を希望**します。
- ・淀川区に利用されていない箱物の活用として、地域介護など利用することはできないかなど**色々なことに気づき**を与えられました。

今後は、ワークショップで出た意見をどう形にしていくかが重要である。

淀川区に想いを持った人たちは多い。しかし、コーディネーター役を務め、形にしていける人は現時点では少ない。

ワークショップ終了時にはこうした情報交換、意見交換の場の継続を求める声が多く聞かれたが、期間が限られているまちづくりセンターから、いかにNPO連絡会や地活協に移行していくか、それが今後の課題である。

当日の様子：

